

3 研究のまとめ

(1) 成果

- 対話的な活動を通して、生徒の思考の深まりを見取ることができました。対話的な活動が思考を深めるための手立てとして有効であることが分かりました。
- 安易なパスワード設定が情報の流出やSNSの乗っ取りなど大きな問題に発展することに気付かせることができました。このことで、所有するICT機器の画面ロックの方法の変更やパスワードの変更、ソフトウェアの更新をするなど適切なセキュリティ対策を施す生徒が増えました。
- 無料Wi-Fiの利用の危険性に気付くことで、無料Wi-Fiの安易な利用を避け、接続する際にセキュリティ状況を確認する生徒が増えました。

(2) 課題

- 情報モラルの指導は、全校種を通じて心を磨く領域（道徳的側面）からの指導が多いのが現状です。体系的な指導を行う中で、指導対象の生徒の発達の段階を考慮しながら、ICT機器を安全に利用していくための知恵を磨く領域（危険回避・セキュリティの側面）からの指導が必要であると考えます。
- 情報モラル指導モデルカリキュラムが示されてはいるものの、その内容全てを情報関連の授業で実施するのは困難です。様々な教科と連携して行っていく必要があります。年間指導計画を立て、学校全体として取り組んでいく必要があると考えます。